

令和4年度 上田市立塩尻小学校 学校自己評価シート (10月中間報告)

学校教育目標	めざす子どもの姿 (中期的目標)	総合評価		
(1)思いやりのある子供 (やさしさ) (2)じょうぶな子供 (たくましさ) (3)よく考える子供 (かしこさ) (4)最後までやりぬく 子供 (ねばり強さ)	(1) 人の気持ちがわかり、思いやりのある言動がとれる子供 (2) 生活リズムを整え、病気やけがに気をつけて生活できる子供 (3) 進んで学習に取り組み、自分の考えを表現しようとする子供 (4) 本気で取り組み、粘り強くやり抜く子供	活動の幅が広がり、子ども達の笑顔が増え、精一杯活動に取り組む姿がたくさん見られるようになってきた。一方で、学校生活に満足できていない児童もみられる。さらに子ども達が輝ける学習活動をしていけるように、児童の意識や実態を捉え、授業の工夫を行っていききたい。		
	今年度の重点目標	成果と課題	評価	改善策・向上策
	1 支え合う学級づくり	異学年交流の機会を大切にしてきた。上級生が下級生の面倒を見たり指導したりすることが自然にできている。自分から積極的に挨拶ができていない。	B	先生や友達だけでなく、地域の方やお客さんにも元気にあいさつできる塩尻っ子を目指し、指導をしていく。
	2 学び合う授業づくり	ほとんどの授業で、ねらいを明確に示すことを意識できている。学びの姿勢や自主学習への取り組みが弱い。	B	相手の話をしっかり聞く姿勢をまず大事に育てていく。自分の見返しをしっかりとるように学習に位置付ける。
	3 高め合う活動づくり	小規模校の良さを生かし、異学年交流を盛んに行ってきた。コロナ禍のため、全校児童が集い、活動することが難しい。	A	全校音楽や全校集会なども、オンラインを活用しながら、全校で学び合える喜びを味わえるように場を工夫していく。

領域	重点	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
学校教育	支え合う学級	あいさつの充実	児童会の挨拶運動を中心に、来校者や地域の中でも進んであいさつする子供を増やせたか。	児童会による朝のあいさつ運動を継続しており、多くの児童は元気に挨拶を返すことができている。自分から進んで挨拶ができる児童に育てていきたい。	B	道徳や日常生活の中で、挨拶のよさや気持ちの良い挨拶について振り返ったり考えたりする機会を大切にする。
		認め合う関係づくり	自分と友達との違いや良さに気づき、よりよい関係を築こうとする態度を育てるために、力を合わせて取り組んだり、課題を解決したりする経験を増やす活動場面や場づくりを進めたりすることができたか。	全学級での畑づくりや、運動会の連学年競技練習を通して、児童が話し合い活動を活発に行いながら、力を合わせて取り組めた。	A	児童が課題に直面する場面をとらえ、友と話し合いながらよりよい方向を考えさせる機会を大切にする。
		児童把握と個に応じた支援	Q-U検査やアンケートで児童の状況や実態を把握し、必要に応じて個別の指導計画を作成しながら全職員で連携して支援にあたることができたか。	毎月教務会で児童の状況把握を行い、児童の個別指導計画を立てて支援を進めている。職員の協力体制をさらに強化していく必要がある。	B	毎週の職員連絡会でも各担任から児童の様子をまめに報告し合い、全職員で状況を共有して指導にあたるようにしていく。
	学び合う授業	共に学びあうための構えをつくる	仲間と共に深める学習に向けて、はっきり話す、話し手を見て最後まで話を聞く姿勢を大切に指導することができたか。	聞く姿勢や発言の仕方など、低学年を中心に丁寧な指導を心がけているが、学級により不十分などが見られる。	B	友の意見を聞く姿勢、相手に伝える声の大きさを大切に指導し、安心して自分の考えを出せる学級づくりを大切にしていく。
		自律して学ぶ力づくり	「つむぐ」等を活用し家庭学習の定着を図り、発達段階に応じて自主学習に取り組めるよう指導支援できたか。	すべての学級で「つむぐ」の記入時間を設け、翌日の予定や家庭学習の内容を確認させることで、宿題にきちんと取り組んでいる児童が多	B	自分の弱点を振り返らせて自主学習に取り組む習慣をつけさせる。予定を写すだけでなく、自主学習記入欄を活用していく。

				い。自主学習力が弱い。		
		「できた」「分かった」と実感できる授業	子供たちが自ら追究していくためのねらいや学習課題、ねらいにそった見返しや定着を設定できたか。	授業のねらいの明記や、見返しの場面を意識して取り組んできた。見返しの時間の確保や見直し方の工夫が必要である。	A	授業や行事後の見返しでは、自己の学びや変容に気づくことができるよう、発問や振り返りの仕方を工夫し、授業の最後には見返しをさせるパターンを定着させる。
	高め合う活動	自主性が伸びる活動づくり	個に応じた適切なめあてを設定し、目標に向けて粘り強く取り組む姿勢を指導・支援することができたか。	1学期の学級や個人目標を立てて、教室内に掲示している。学期ごとに振り返りをさせて見返しができた。	A	学級や個人の頑張りを教師が評価しながら、課題にも目を向けさせて次の目標に向かえるよう指導する。
		児童による協働の学び	異学年との交流の場を設定し、互いの良さ、協働することのよさを実感できる活動づくりができたか。	学校行事では、連学年やなかよし学級のつながりを大切に、年下の児童を支えたり、異学年から学んだりすることができた。	A	オンライン等も活用しながら、異学年とともに学び合える活動を工夫していく。
		地域との学び	地域資源（人材・題材等）を活かして、クラブ活動・生活科・総合的な学習を構想し取り組むことができたか。	昨年度より多くの地域講師の方にクラブ活動への協力をお願いし、活動充実につながった。また、地域資源を生かし、歴史や自然に触れる校外学習ができた。	A	子ども達が学びたいことを捉え、それに応えられる幅広い地域の人材や題材を発掘するため、地域の支援コーディネーターとも連携していく。
学校運営	地域との連携	情報の発信	学校、学年、学級だより、学校ホームページ等を通して、学校での児童の学びを保護者や地域へ発信することができたか。	学校長が大切にしている教育方針や、運動会等地域へ公開できなかった学校行事での子ども達の様子が伝わるように、掲載内容や写真を工夫し、発信できた。	A	子ども達の作品や日常の学びの姿をできるだけめにHPで発信していく。後期は、地域の方にも学校参観をしていただける機会を考えていく。
		PTA や地域の方々との連携	PTA や地域の方々との連携し、学校行事等の様々な活動を充実させることができたか。	昨年度の実績を生かし、学校行事ではコロナ対策等でPTAともスムーズな連携体制をとることができた。また、学校運営協議員の方に、多くの行事を参観していただけた。	A	子ども達の学ぶ姿をできるだけ見ていただく機会を減らさないよう、感染対策を工夫して、開催方法を柔軟に考えていく。

○評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できた D・・・達成できなかった